

会議録【概要】

日時：令和8年6月18日（木） 15：00～16：33 会場：岩手県立宮古北高等学校 大会議室

会議名：令和8年度 岩手県立宮古北高等学校 第1回学校運営協議会

進行：齊藤 孝明（宮古北高等学校／副校長） 記録：似内 若葉

出席者：【学校運営協議会委員】

千葉重徳氏（宮古市立田老第一中学校 校長）、小向広幸氏（三陸鉄道株式会社 運行本部 指令部 指令長）、早川輝氏（NPO法人みやっこベース 理事長）、中澤京子氏（田老福祉センター 係長早川恵氏 代理）、久保田亮二氏（宮古市田老総合事務所 所長）、腹子あきこ氏（同窓生代表）、柴田護（宮古北高等学校 校長）、齊藤孝明（宮古北高等学校 副校長）

【次第及び主な発言】

1 開会

2 学校長挨拶

3 出席者自己紹介

4 学校概況説明

5 協議・情報交換

① 令和8年度 岩手県立宮古北高等学校経営計画及び「特色化・魅力化ビジョン」について

② 地域検討会に向けて

（1）本校へ期待すること

- ・少人数だからこそ手厚いサポートと、地域からも補助を行うことによる、よい連携体制の実現。
- ・一人ひとりの個性を伸ばしていく学校生活の運営。
- ・高校3年間で、人生の成長につながったと実感できること。
- ・田老、宮古に貢献することにより、生徒自らが役割を持つこと。学校内の役割だけでなく、地域での役割も必要なのではないか。既に行っているボランティア活動があると思うが、学校内でのボランティア活動もよい経験になるかもしれない。
- ・「総合的な探究の時間」では、これまでの型にはまらないものを作っていくこと。
- ・地元田老、宮古を大事にする、地元を大事にするような学校。
- ・中学校で思うように力を発揮できなかった生徒も、それでも社会に出ていかなければいけない。既に手厚いサポートをさせていただいている。ありがとうございます。
- ・人が生成AIの使い方を考えていかなければいけない。非認知能力やコミュニケーション能力が求められる時代。
- ・個性を生かして尊重する、手厚いサポート。
- ・子ども（高校）のころに地元の魅力を知っていると、Uターンにつながると思う。
- ・仲間をつくること。しかし、自分とは真逆の人もいて、関わらなくても生きてはいける。コミュニケーション能力は身に付けたいが、コミュニケーションとてなくても大丈夫。できないことがあってもよいという尊重も必要。
- ・学校と地域の連携。「北高に入学して前向きになれた」という現生徒会長の言葉からも、学校のよいところを発信することに力を入れる。特に、部活動（吹奏楽部や茶華道部など）の良さの発信に力を入れることで、注目度が上がると思う。
- ・誰にでも分からないことはあり、スマホに問うことができる時代だが、直接、人に聞かなければならない場面もある。話を聞く態度や言葉遣いなどを教えてほしい。
- ・自分の人生に生かす機会（高校生活）があることを理解し、人と話すことの楽しさや自らの役割を学んでほしい。そのチャンスが高校生活であることを教えてほしい。
- ・一人ひとりに寄り添った指導を今後も継続してほしい。
- ・「総合的な学習の時間」以外にも体験する場面を作してほしい。
- ・社会に出て必要なコミュニケーション能力を身に付けてほしい。

- ・今回提示された「特色化・魅力化ビジョン」について、「学校経営計画」とは別なものなのか。
→「学校経営計画」は県に提出済みのものであり、「特色化・魅力化ビジョン」は本校の在り方に言葉を据えたもの。よって、別なもの（２種類）である。

（２）本校の入学者が減少している要因について

- ・少子化により、子ども人数が少ないこと。通学の不便さから管外からの入学者が少ないこと、進路の面から管内の北高以外を選択していること。
- ・市内の差別化。北高の特色を発信することが必要。
- ・高等学校の定員の割合は、少子化に合ったものなのか。
- ・入学してみたら面白いと思われるようなアピールが必要。高校生活の面白さは、生徒数の人数ではないと思う。取得できる資格（ネイル等）を新たに取り入れることも検討してもいいかもしれない。
- ・高等学校の定員の割合が少子化に合ったものなのかという疑問について、中学校の視点から、高等学校募集定員の６割ほどしか生徒がいなかったため、他人と競争しなくとも入学できるという現状である。部活動や学校規模から志望校を選択する生徒が多い。
- ・中学生が進学や就職が安定した学校を選ぶのは、周りの大人からインプットされているのではないかと感じている。そのため、高校側の善し悪しではなく、悪循環が生じていると感じる。
- ・過去３年間の市内の高校入学人数を調べてみたところ、宮北より他校の方が入学人数の割合は減っている。
- ・近年中に宮北が募集停止になる情報を得た。周囲でもその情報を得たことにより、これから無くなる高校に入学させても・・・と思う人もいるかもしれない。
- ・現生徒会長の声が、直接、中学生に伝わるとよい。ありのままの姿と感じてくれると思う。しかし、聞く機会がない中学生もいたり、北高の魅力を知らない生徒もいたりする。そのような中学生に、北高から発信してもらいたい。
- ・少子化の影響。学校の場所に、遠いイメージがあるのではないかと。よさをいかにアピールしていくかが大事である。

（３）入学確保に向けた方策について

- ・北高のよさを適切に発信する。楽しめないイメージがあるのであれば、誤った情報を払拭する。
- ・現生徒会長の言葉や、PTAからの発信は有効だと思う。
- ・地域で体験的に学ぶことは、企業も大歓迎だと思う。
- ・田老駅から学校まで、距離があると思う。貸出自転車などあるとよいと思うか、実現可能なのか。
- ・中学校の進路指導（高校選び）では、進路の可能性を広げるものであり、ピンポイントで学校を薦めることはできない。しかし、紹介はできる。紹介できるネタがあればあるほど、日々の学校生活が充実することを周知できる。
- ・中学生のなかには力を十分に発揮できない生徒も多く、高校に進学することによって、その後の進学や就職に安心を持てることを伝えている。
- ・現生徒会長のように、自ら選んだ高校でこんなにも成長できると実感できることは素晴らしいこと。変われることを知る機会が必要。
- ・社会福祉協議会では、様々な情報を発信（掲示）できるので、協力させていただきます。
- ・先生と生徒の距離が近いことや商業科目を学べることがよさであり、アピールできる点。
- ・授業や行事の様子を発信する。

6 質疑応答・学校運営協議会委員助言

- ・学校説明会で直接聞けない中学生に対して、副校長と担当教員で中学校に出向き、本校の魅力を伝えることを検討している。また、市内の中学校には、校長が出向いて思いを伝えることを検討している。

7 その他

- ・第２回学校運営協議会は２月１５日（月）を予定している。

8 閉会

7 閉会